



文化財ニュース

No.40

発行 加古川市教育委員会 加古川市加古川町北在家23-1
編集 生涯学習推進室 電話 24-1151

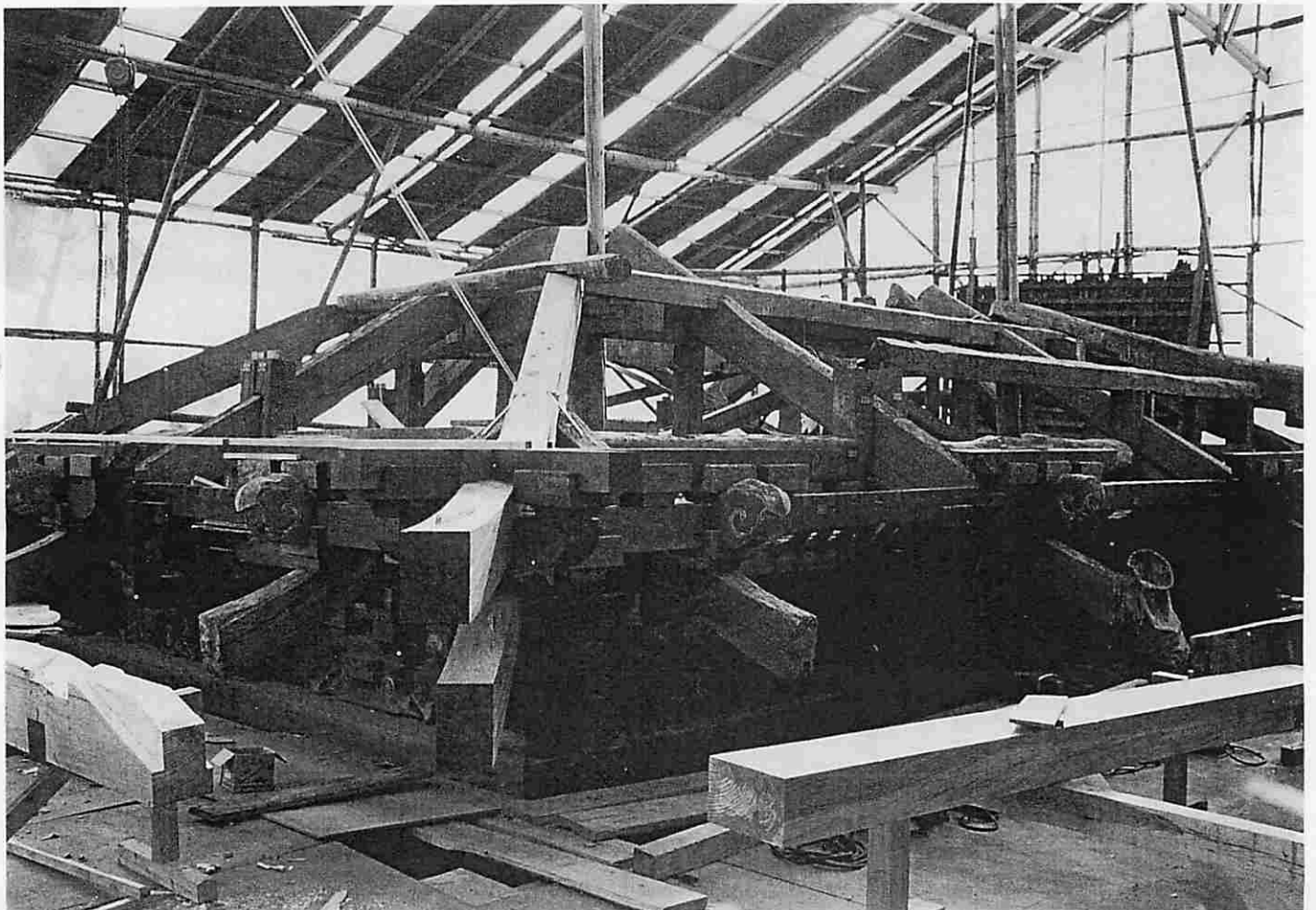
県指定鶴林寺仁王門の保存修理すすむ

江戸時代、寛文・元禄・文化の改修以来、老朽化で傷みが激しく、また阪神淡路大震災で建物が傾いてきたため、平成7年度から3ヶ年計画で、震災復興事業による解体修理を行っています。解体は、屋根瓦や木組みを調査しながら、傷んだところを補修し組み立てるというもので、昨年7月には、地震で傾いた台座を修理するため、仁王門に安置されていた2体の金剛力士像が新薬師堂に移さ

れました。現在は、金剛力士像も戻され、傷んだ部材を補修し、屋根を再び組み立てているところです。

解体の時の調査では、江戸時代の修理の中で、室町時代の建築部材が地垂木などに転用されていたことが確認されました。

仁王門の工事は、9年度には完成し、再び元の姿を見ることができます。



鶴林寺仁王門 木組み組み上げ状況

国指定史跡西条古墳群

行者塚古墳出土の盾形・圜形埴輪などを復元展示

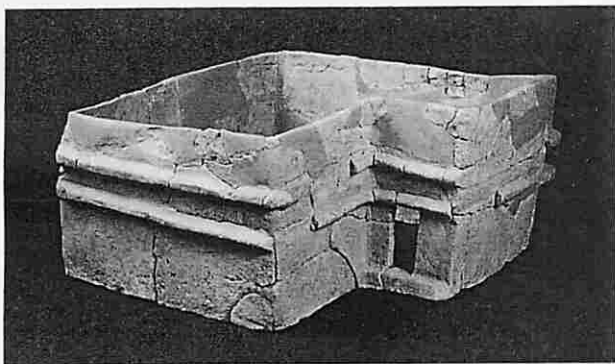
最古級の帯金具が発見され、加古川も対外交流の拠点であったことを明らかにした、5世紀初めに築造された行者塚古墳からは、埴輪・鉄製品が出土しています。

平成8年度の整理復元作業により、家形・盾形のほか、豪族の館を表現したといわれる圜形埴輪などが復元されました。とくに盾形埴輪は高さ約110センチメートルある堂々としたもので、播磨で復元されたものとしては唯一のものです。

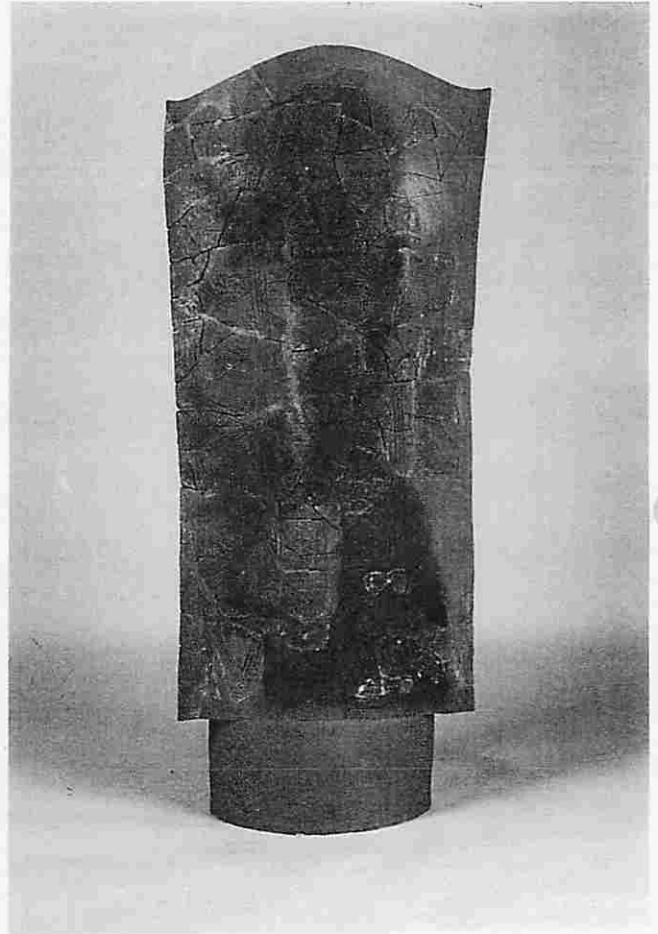
これらは加古川総合文化センター博物館にて随時展示しています。

また鉄製品の馬具の轡には、3タイプあることが保存処理により判明し、朝鮮半島からの輸入品と考えられます。

これらの出土品と行者塚古墳の古墳時代の歴史的な位置付けについては、9月に開催されるシンポジウムで詳細に報告する予定です（シンポジウム予告欄をご覧ください）。



圜形埴輪



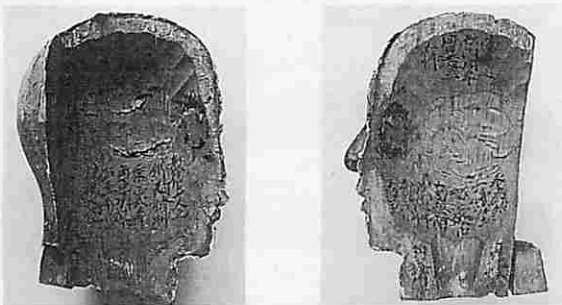
盾形埴輪

市指定文化財に木造教信沙弥頭部像を指定

教育委員会では、文化財審議委員会(委員長吉田亨盛氏)の答申を受けて、教信寺の教信沙弥頭部像を、平成8年度に市指定文化財として指定しました。

この頭部像の作風は写実的で、教信沙弥の死骸は荒らされていたが、顔だけは綺麗に残っていたとの伝承や、境内の教信墓塔とされる県指定五輪塔とも関連して、その事蹟を伝える像となっています。

頭部の内側には、康正二年(1456)に補修した墨書銘がありますが、この像はそれをさかのぼる鎌倉時代末頃(14世紀)の制作になる作品と考えられます。



1 頭部内 墨書



頭部像 正面

県指定民家本岡家住宅の移築再建に着工

元禄7年(1694)の棟札が残る県指定民家本岡家住宅は、播磨の基準となる民家建築です。

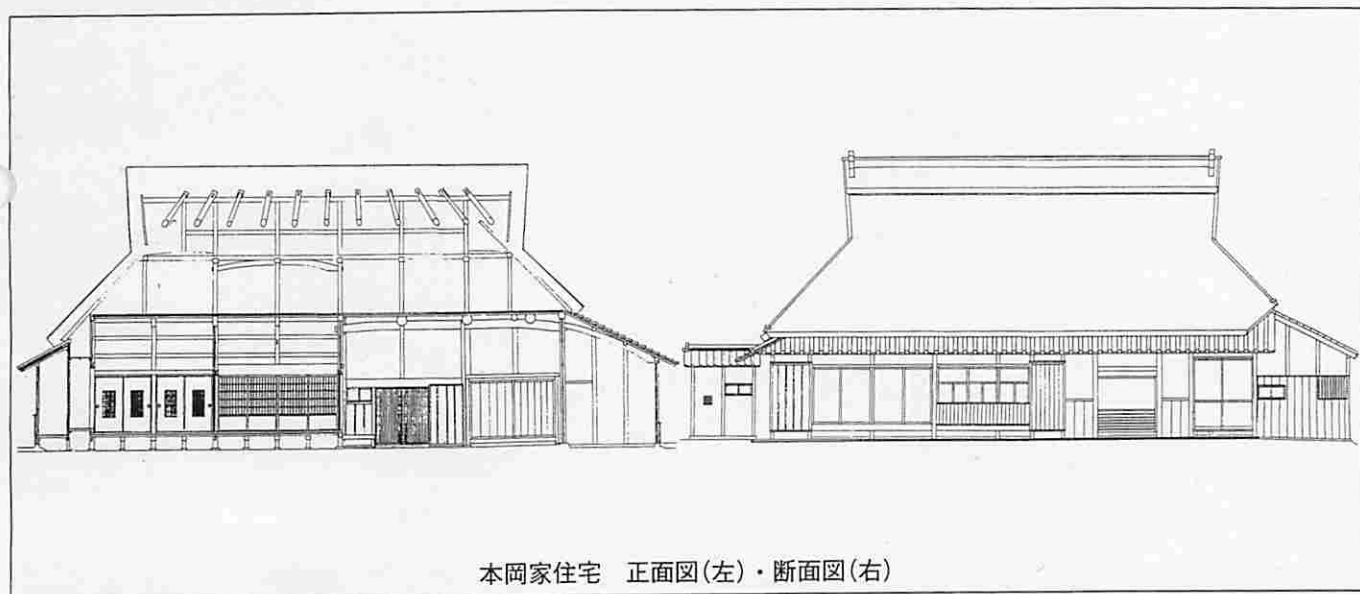
平成7年度には、建築部材の調査を行いながら解体しました(図面参照)。そして、平成8年度は、少年自然の家野外活動センター内に移築するために、敷地造成工事を実施しました。

平成9年度は、民家の改築を受けた部分を江戸時代の様式に復元しながら、移築再建を行います。

平成10年4月には、加古川のくらしを学ぶ民家学習館としてオープンする予定です。



移築場所(●印)



本岡家住宅 正面図(左)・断面図(右)

平津構居跡の調査

米田町平津に所在する平津構居跡は室町時代の城館跡と伝えられる遺跡です。しかし、その確かな位置や大きさは不明となっていました。今回、この遺跡の想定範囲内に土地区画整理事業が予定されたため、事前に範囲確認のための試掘調査を実施しました。

調査は各所に2×2mの試掘坑を設定して行いました。その結果、弥生時代～平安時代までの土器片を含む地層の存在を確認しました。この地層は時代幅の大きい土器片を含むことや堆積の状況から整地層と考えられます。また、別に堀立柱建物の柱穴も1箇所で見られました。なお、今回の調査範囲からは構居跡は見られませんでした。



位置図(●印)



発掘調査の風景



確認された柱跡

国指定史跡行者塚古墳シンポジウム開催

「古墳時代中期の解明～行者塚古墳を中心に」(仮題)

古墳時代中期（5世紀初め）に造られた行者塚古墳。この古墳の墳頂部からは中国製（3世紀）の金銅製帯金具、朝鮮からもたらされたと思われる馬具、鉄の材料である鉄ていなどが出土しています。また、前方部西側の造り出し（お祭りをしたと思われる四角い区域）からは、家形埴輪のほか高杯、それに盛ったと思われるアケビ・ヒシの実・鳥・魚形などの土製品が出土しています。

この古墳に眠る被葬者は、どのような人物だったのでしょうか。また、死者へのお祭りはどのよ

うなものだったのでしょうか。調査を担当された方と古墳時代の研究者をパネリストに招き、その謎を解明するとともに西条古墳群をどのように後世に伝え活用を図っていくかを考えます。

1. 日 時 平成9年9月21日(日)

2. 場 所 加古川市民会館

* 詳細につきましては、広報および新聞等でお知らせします。

文化財に関心のある方 加古川市文化財保護協会に入会しませんか。

加古川市内には数多くの文化財があります。わたしたちの祖先の文化遺産が、社会開発と生活様式の変化にともない、消滅の危機にさらされています。保護協会は、これらの文化財（有形・無形・民俗文化財・記念物）ならびに自然風土を保護し、これらに関する研究とその知識の普及をはかり、市民文化の向上に資することを目的に、昭和51年11月13日に結成されました。そして、文化財見学会、講演会の開催、文化財説明板の設置や文化財テレホンカードの発行などを通じて文化財保護の活動を

積極的に展開しています。保護協会で加古川の文化財の再発見をしてみませんか。

会費 年間2,000円（中・高校生1,000円）

◎文化財シリーズテレホンカード配布

◎文化財見学会・文化財講座の案内

保護協会入会のお問い合わせ

加古川市教育委員会 生涯学習推進室

電話24-1151（内線5214）

文化財シリーズテレホンカード紹介(各700円)



▲尾上神社の銅鐘 ▲長楽寺地藏菩薩像 ▲県指定史跡 西条廃寺 ▲常楽寺阿弥陀三尊来迎図 ▲国指定史跡 行者塚古墳

購入ご希望の方は、教育委員会 生涯学習推進室（新館8階）へお立ち寄りください。